

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071001194		
法人名	有限会社 正和		
事業所名	グループホーム 平尾宅老所		
所在地	福岡県福岡市中央区平尾1丁目10-6 (電話) 092-522-1121		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 10 日	評価結果確定日	平成 26 年 3 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設の理念である「住み慣れた地域でお一人おひとりの個性を尊重し笑顔あふれる生活ができるようお手伝いします。」を基に、家族、地域、施設が力を合わせ、その方らしい生活ができるよう支援致します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 26 年 2 月 14 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は高層11階建ての2階および3階にある3ユニットの事業所で、上階に併設の介護付有料老人ホームとは非難訓練等非常時の協力体制をとりながら運営されている。私鉄駅や幹線道路に近く、商業ビルやオフィスが多い地域に位置している中心市街地にあるが、周辺は閑静な住環境である。職員は、認知症・身体拘束廃止・事故防止・マナー向上・レクリエーション・感染防止といった各委員会活動を行い、利用者家族の意見を取り入れながら、利用者一人ひとりの個性に合った介護サービスを心がけ、サービスの質の向上に努めている。更に、地元の自治会に加入して、地域住民と事業所及び利用者が普段から交流を行い、地域に開かれた施設になるよう取り組んでいる事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で一人お一人の個性を尊重し笑顔あふれる生活が出来るようお手伝いします。」という理念をもとに地域の清掃活動にも参加し地域と関わる機会を行った。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念がある。管理者と職員は理念の実践に向けて、スタッフ会議等で利用者と地域とのつながりについて話し合いを行い、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕活動や季節ごとの行事に参加し、地域の方々との交流を深めることが出来た。	地元の自治会に加入し、毎週段ボールを公民館に持参したり、運動会や夏祭り、年2回程程度の清掃活動は利用者同伴で参加している。近隣小学校の生徒が敬老会等を通じて利用者と手紙の交流を行っている。事業所の行事は自治会の回覧板を通して近隣に知らせている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を毎月開催し、外部セミナー等にも積極的に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、そこで出た意見をもとにサービスの共有、向上につとめている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の状況や行事、取り組み等を報告している。委員からの提案で「事例発表」を行うなど、運営や介護の質の向上に活かす取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度、中央区役所へ訪問している。中央区の保護課や包括支援センターの担当者の方と連絡をとり、連携をはかっている。	市行政へは日頃から電話で事業所運営の報告や連絡を行っている。介護保険の更新申請や事故報告、相談等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の施錠は行っているが、禁止の対象となる行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに日頃より取り組んでいる。	ビル管理の関係で、1階の玄関はインターホンを通じて開閉する仕様となっている。居室の施錠は行っておらず、職員は見守りや付添いのなかで、外出を希望する利用者の様子や気持ちをくみ取り、声かけや話をしながら散歩に付添うなど、外出に同行している。各ユニットとも同様の対応を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会に参加し、研修で学んできたことを持ち帰り、グループホーム内でも勉強会等もやっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会で学んだ事はスタッフ間で共有し活用している。	権利擁護に関する制度について、管理者は契約時に説明を行っている。権利擁護に関する外部研修に参加した職員が、他の職員に伝達研修を行ない、職員は必要に応じて利用者家族に情報提供し活用できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりご本人様、ご家族様に納得して頂けるよう説明し、不安、疑問点がないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設け、いつでも対応することができるように行っている。 ご家族様が面会に来られた際に日頃の様子をお話している。家族会や運営推進会議でも、意見を頂けるように行っている。	職員は、家族の面会時や電話連絡等で要望を聞くようにしているが、家族はケア会議や運営推進会議に参加し、意見や思いを伝える機会がある。利用者本人や家族からの意見は少ないが、転倒防止、食事内容の説明、演劇や野球観戦、外食等の要望があり、それらを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、スタッフ会議を行っている。又、定期的に各種委員会を開き職員の意見を聞き業務の向上に努めている。	管理者は、職員の様子を見て声をかけたり、意見を聞く機会を設けている。職員の提案は運営に反映され、新任職員離職防止の「ウェルカム挨拶」、台所器具の買い替え、ペーパーホルダーの取り付け等が行われている。「ウェルカム挨拶」は現在、職員同士の挨拶や声かけ、帰りは笑顔をモットーとし、全職員で行われている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者より個別面談を行ったり勤務状態、健康管理の把握を行いスタッフの向上心を失わないように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>スタッフの能力、個性が発揮できるように配慮し、やりがいを持って働けるような職場作りをしている。</p> <p>朝礼、全体会議時に意識付けている。</p>	<p>職員の募集にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、新規採用者の定着に努力や工夫が行われている。定年は61歳であるが、再雇用の機会が設けられている。職員のステップアップのための勉強会や資格取得などの情報提供も行われている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一年に一回、人権研修に参加している。</p> <p>業務中も常に利用者様の立場に立って考え、業務への取り組みを行っている。</p>	<p>管理者は勉強会等を行い、職員は日頃から職員同士がお互いに言葉づかいや態度等を注意し合うなど、利用者の人権を尊重したケアについて考え、取り組みを行っている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的実施されている外部研修に参加している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設と月に一度勉強会や会議に参加しサービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用様が困っていること、不安なことをその都度聞き取り、ケアマネ、リーダーを含めユニット内で話し合い、安心の確保に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ケアプラン作成前の情報収集として、ご本人様、ご家族様の不安な事、困り事、要望などを聞き取り、支援している。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が何を必要とされているかを見極め、何を優先したら良いのかを相談し、それに関するサービスの導入を実施している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が楽しく過ごして頂けるようにスタッフも一緒に関わりを持ち、お互いの信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス、餅つき大会など、ご家族様と一緒に参加して頂けるよう声掛けを行い、共にご本人様を支援していく関係作りを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に馴染みのあった方との交友関係が途切れないように定期的に連絡を取り、面会に来て頂いている。	職員は、利用者や家族の希望による外泊、知人への手紙投函支援を行い、利用者と一緒に友人に会うことや地域の祭りである「どんたく」の見学なども行い、住み慣れた地域や馴染みの人や場の関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が一緒に楽しんで頂けるようにゲーム、歌等、レクレーションを行ったり、家事などをしたり、共同で行うことでお互いに支え合える関係に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も連絡があった際は話しを聞いたり相談に応じたり必要に応じた支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の思いや希望を聞き取り、把握し、出来る限り希望に沿ったケアが行えるように努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者のいつもと違う表情、姿勢等から、話しかけたり様子を観察したりしながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は家族や職員の情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方、生活環境などを大事にして、ご自宅にいるような暮らしが出来るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活習慣をもとに、その方らしい一日の過ごし方や心身の状態を確認し、把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お電話や面会時のご家族様との話しの中で、意見や気持ちを聞き、介護計画に反映させ作成している。	職員は担当制になっており、担当者会議に参加して介護計画の作成に携わっている。日ごとの会話から利用者や家族の要望、関係者の意見も併せて計画の作成を行っている。6ヶ月に1回、また利用者の身体的状態の変化に対しては随時見直しを行っているが、家族の思いを把握し、その支援にも繋がるような計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に気づきを記入し、毎日の申し送り時に職員間で情報の共有を行い、介護計画の見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人の日頃の心身状態を把握し、その都度介護方法を工夫しながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の生活状況を把握し、ご本人様が持っている心身の保有能力を発揮して頂けるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察なども取り入れ、ご家族様、ご本人様の希望を重視したうえで受診して頂いている。	かかりつけや希望する医療機関への通院を家族と協力して支援しているが、入居を機に協力病院への変更もある。特に急な受診には家族と連絡し相談しながら適切な医療が受けられるように支援を行っている。また、できるだけ利用者家族の負担にならないような受診支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り時に全体報告及び状態の変化に伴い、提携している看護師への連絡は適宜行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様にご本人様の心身の状態確認を行い、病院とも情報交換や入退院の相談に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、主治医、職員で相談を行いながら支援できるように取り組んでいる。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」として明文化されており、入居時に説明を行っている。また、利用者の状況の変化により医療機関への入院なども含め家族と相談して対応しており、看護師とも連携して職員全員で情報の共有をしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習会など、定期的に研修へ参加し、実施訓練を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防訓練は昼、夜設定で年に二回実施している。運営推進会議で町内会長様、民生委員様に参加して頂き、地域の方にも随時報告をしている。	避難訓練は消防署の協力を得て年2回行い、避難経路や消火器の使い方等を実施している。運営推進会議や自治会回覧板、チラシ配布等で住民への参加協力依頼を行っており、民生委員の参加がある。また、施設自体も地域の避難場所として望まれている。非常用備品は、事業所内に準備されていない。	飲料水、非常用食料、備品等がいつでも使用できる状態で事業内に非常用備蓄品として準備していただきたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーを踏まえての分かりやすい言葉で声掛けに努め、利用者様の気持ちを尊重した対応をしている。 お一人お一人に合った声掛けを工夫して行っている。	排泄の誘導の際は耳元で言葉をかけて誘導し、入浴時の介助はできる限り同性スタッフで行っている。また、脱衣介助や洗身等、利用者が自分で行えることにも目を向けながら、利用者のプライバシーを損ねないような介護、支援に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で、利用者様の思いやしたい事を聞き取り希望に沿った生活が出来るように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今何をしたいのか、どうして欲しいのか、利用者様の声を最優先しお一人お一人との関わりを密なものにしていくように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様がお好きな洋服を選んだり、時には一緒に選んだりと楽しんでおしゃれができるように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量や保有能力に応じた事をお手伝いして頂き、職員や利用者様と一緒に準備や後片付けを楽しみながらできるように努めている。	職員は利用者と食事の準備や後片付けを一緒に行っている。食事が楽しみとなるよう、個別に自宅の茶碗や箸を用いたり、食事中、昭和の曲を流すなど配慮している。また、栄養士が立てた献立をそれぞれのユニットの台所で調理しているが、利用者の趣向やその時に食したいものをなるべく取り入れるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立がカロリー計算されており、食材はお粥、きざみ食など一人ひとりの状態に応じて摂取しやすように提供している。 水分量は食事時他10時、15時に好みの飲料水を飲んで頂き水分量を確保している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、歯みがき、うがい、義歯洗浄の介助など、お一人おひとりの状態や保有能力に応じたケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導、尿の間隔、声掛けを行い、排泄表を確認し、お一人おひとりの排泄パターンに応じて行っている。	それぞれの排泄サインは把握しており、拒否に繋がらない様な誘導方法に努めている。尿意のない利用者には排泄表を用いて排泄パターンの把握に努め誘導している。また、利用者一人ひとりのおむつやパットの見直しを家族と共に行い、次第に紙パンツから布パンツへの移行もできている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時とおやつ時の水分補給に加え、一日二回の水分補給や体操、散歩など一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	お一人おひとりの希望に合わせて入浴して頂いている。週二回の入浴が出来るように努めている。入浴拒否がある場合は担当や曜日、声掛けの仕方を変えて対応している。	利用者は週2回の入浴支援行われているが、希望があればいつでも入浴できるように毎日準備されている。入浴拒否の利用者には、入浴日の変更や足浴、清拭を行い柔軟な対応をしている。また、入浴剤を使用したり、地域の支援センターの大浴場を利用することにより、利用者が入浴をより楽しめるように努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々利用者様の状況に応じて居室でテレビを見たり休息して頂いたり、お一人おひとりの気持ちを優先させて安眠できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容を把握したうえで、職員同士で声を出してお名前の確認、更にご本人様の側で再度確認し、服薬確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをして頂き、毎日張り合いのある日々を過ごし、季節事の行事にも楽しく参加して頂けるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご要望に沿って散歩や買物をして頂けるように気分転換を兼ねた外出支援を行っている。	職員は利用者と施設周辺を散歩することは多く、時々、利用者の要望で買い物や外食と一緒に出かけることもある。また、年間を通して、計画される神社への花見や動植物園への外出には、家族の協力のもと行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のご希望をお聞きし、必要に応じてお金を使えるように支援し、買物や外食をして頂いている。又、希望や保有能力に応じてご本人様の財布を用意し、お小遣いから必要な物を購入するようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙を出したり、利用者様から要望があれば電話をかけて頂くなど、ご家族様とのやり取りができるように努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは季節に応じた飾り付けを行い雰囲気作りに工夫している。エアコン加湿器を用いて快適な空間作りを行い居心地よく過ごせるように工夫している。	限られた空間の配置を工夫して茶筆筒を置き、壁かけや人形、季節の飾りつけなど家庭的で居心地良いリビングになるように努めている。また、室内温度や湿度管理もされており、職員の落ち着いた声、テレビやBGMの音量にも配慮が伺える。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、利用者様同士、楽しくお話されたり個々の時間が過ごせるような居場所作りに動めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から馴染みのある家具やぬいぐるみなどを持って来て頂き、安心快適に過ごせるような空間作りに努めている。	利用者の部屋はそれぞれの安全を考えた配置になっており、居室には利用者の書道作品や好きな歌詞を書いたものが貼られ、好みに応じてぬいぐるみ等も置かれている。また、家族写真やアルバム、毛布が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行して頂けるように共用スペースには手すりがついている。又、ご自分で靴を履いて頂けるように玄関先、エレベーター前にはイスを設置し安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『住み慣れた地域で一人おひとりの個性を尊重し、笑顔あふれる生活ができるようにお手伝いします。』という基本理念をもとにお手伝いに関わって頂いたり、地域との交流の機会も作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の地域清掃に参加し、地域住民の方と一緒に清掃活動を行った。又、施設での夏祭り、敬老会など、地域の方に参加頂き交流を持っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の時は地域の方へも声をかけ、交流を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を開き、そこでの意見をもとにサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネが、窓口に出向き申請を行い、包括支援センターの方に二ヶ月に一度の運営推進会議に参加して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の施錠はしているが、対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに日頃から取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いたり、定期的に研修に参加し、研修内容をスタッフ全員に伝達している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、それを通じてスタッフ間で理解し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりご本人様、ご家族様に納得して頂けるよう説明し、不安、疑問点がないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口にていつでも対応できるようにしている。家族会や運営推進会議でも意見を頂くようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議や面談を行い、スタッフの意見を聞き反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者による自己評価や個人面談により昇給、賞与、役割などの評定を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員一人ひとりの個性、能力が発揮できるように配慮しやりがいをもって仕事をしてもらうよう努力している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な研修、人権教育に参加し、必ず利用者様の立場になって考えるよう取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇マナー講習会やADL講習会などを受講し、新人職員には介助方法などを側について指導している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と月に一度、勉強会や会議を行い、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っていることにその都度耳を傾け、提携している看護師、ケアマネを含めユニット内で話し合い安心の確保に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアプラン作成前の情報収集として、ご家族の困り事、不安な事、要望を伺い支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意見の中で、優先事項を話し合い、その他のサービス導入も実施している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が得意とされることを引出し、参加型の暮らしの中で支え合う関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生会やイベント時には、ご家族に参加頂いている。又、連絡を密に取り、一緒にご本人様を支援する関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会に来て頂いたり、馴染みの場所への散歩など、お連れし支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でゲームや歌、共に楽しめるレクリエーションを実施している。 ご利用者様が共に支え合い、共同生活ができるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方から連絡があった場合は必要に応じた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様から希望を聞き取りスタッフ間で話し合い希望、意向に沿ったケアを心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に在宅での生活歴、生活習慣をお聞きしたり、日々の生活の会話の中からも把握できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴や日々の生活習慣をもとに心身状態を把握しケアに生かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、ご本人様、ご家族様、スタッフとでケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し、申し送りや職員間で情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりに合わせたケアで対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様がそれぞれお持ちになっている力が発揮できるよう、その方に応じた支援をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望にできるだけ沿えるようにし、往診時には職員が同席している。又、通院時は提携している看護師が付添い適切な医療が受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝、夕の申し送り時の報告・連絡・相談を密にしご利用者様が適切な処置、看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様にご利用者様の状態確認を定期的に電話で行っている。 病院にも情報交換、入退院の相談など定期的に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医と相談し、支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い発生時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設内の訓練を行っている。 運営推進会議では民生委員様、町内会長様に随時報告し、災害時には協力して頂けるように、日頃から取り組んでいる。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー向上の研修、勉強会を開き、一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気をつけて声をかけて対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時の洋服選びやその方の好みを最優先させ、又、思いを表現できない利用者様は状態をみながら支援をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様、ご家族様からの要望に沿った生活ができるように支援し、家事手伝い、リハビリ、歌なども個々のペースで関わるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整髪、お洋服選び、髭剃り、お化粧の支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には口腔体操を行っている。好みや食事量、形態に気を配り、美味しく召し上がっていただけるよう提供している。 又、食後には片付けの手伝いをして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を個人に合わせた食事形態で提供している。 水分もこまめに飲んで頂き、必要な分量になるように提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛けを行い、出来ない方には介助にて行っている。義歯は洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導、声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の水分補給、リハビリマッサージ、体操など身体を動かして頂く機会を設け、自然排便されるように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴拒否のある時は無理強いをせず、日を改めてタイミングを変えて声掛けを行っている。入浴の際は話しかけて楽しく入って頂けるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠時間に合わせ入眠できるよう声掛けや誘導をして、1時間毎に巡視をしている。不眠時は温かい飲み物を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を理解し、誤薬がないように三重チェックを行っている。 症状の変化が見られた際は提携している看護師への報告を行い薬の変更なども検討して頂いている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意分野を活かした役割を持って頂き生きがいを持って過ごして頂けるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、施設の周りをスタッフと一緒に散歩したり、地域行事の際はスタッフと共に参加させて頂き、支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のご希望に沿って買物をしたり、近くのお店へスタッフと一緒に行き、お買い物をして頂くなどして支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフがご家族様へ電話したり、ご本人様の希望があれば、それに沿えるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは落ち着ける空間作りを心掛け、ゆっくり音楽を流したり季節に合ったお花や飾りで和んで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が笑顔で談話されたり、テレビを見られたり、お一人おひとりに合った時間を過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていた家具やご本人様が好きな人形などを持って来て頂き、居室でもその方らしく過ごして頂けるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間には手すりを付け、段差はつくらず、玄関先にはイスを置いて休息出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の『住み慣れた地域で一人ひとりの個性を尊重し笑顔あふれる生活ができるようお手伝いします』に基づき地域行事に参加したりご家族様の協力も得て、利用者様に合った生活をして頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	校区の運動会、町内の地域清掃などに参加したり週に一度利用者様と一緒に公民館までダンボールを持って行き、地域住民の方と交流を持っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流、キャラバンメイトへの参加、活動をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、施設で提供しているおやつを実際に試食して頂き、感想を基にサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所保護課や包括支援センターと連携を図っている。又、二ヶ月に一度の運営推進会議にも参加して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の施錠はしているが、具体的行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに日頃から取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会に参加し、研修で学んだ事はスタッフ全員に伝達講習を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し、スタッフ全員に伝達事項を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりご本人様、ご家族様に納得して頂けるよう説明し、不安、疑問点がないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設け、いつでも対応できるようにしている。又面会時に日頃の様子をお伝えしたりご家族様が話しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月に一度開いている。その他でも面談を行い意見を反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者による評価や個別面談により、昇給、賞与、役職の評定を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の個別の能力や得意分野を活かしてやりがいをもちながら仕事ができるように努めている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>定期的に研修、人権教育に参加している。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの力量、経験年数などを考慮し法人内外の研修に参加している。又、業務に関しては必要に応じて、指導計画に沿ってトレーニングしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループのグループホームの運営推進に参加させて頂いたり、職種毎の会議に参加し、交流を持てるように努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日々コミュニケーションを図る中で、ご本人様の状態を把握し、提携している看護師、ケアマネを含め担当者会議を開催している。又、他のサービスの導入も実施している。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時やご家族様の面会の際に要望をお尋ねし、サービスを行っていく事でご家族様に安心して頂けるように努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の意見の中で何を優先したら良いのかを話し合い、サービスの向上に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様主体に日々の生活を過ごして頂き出来ない所をスタッフがお手伝いして一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やイベントの際はご家族様にできるだけ参加して頂けるように声掛けを行い連絡を密にし、ご本人様と一緒に支援していく関係を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方への外出が困難な方も昔のなじみの方が来られるとゆっくり過ごされている。 又、面会の方が来られた際はスタッフと共に迎えし、楽しくお話して頂けるように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者様がお好きなようにお過ごし頂けるように、スタッフがいつも見守っている。自由な時間を過ごして頂くなかでも、他の利用者様とも積極的に交流が持てるように配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても連絡があればいつでも対応させて頂くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の会話の中に、何か隠されているのか読み取るように心がけている。会話の困難な方に接していく中で感じ取り、他のスタッフと話し合いながら希望に沿えるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴の情報を基に、できるだけ入所前の生活を大切にされた会話や生活にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の情報は特に大切に、利用者様の能力と心身状態を見極めながら、スタッフ同士で話し合い働きかけている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時に要望などを尋ね、更にカンファレンスを開くことにより、看護師、関係者の意見を取り入れ会議計画を作成する。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の内容はできるだけ充実した内容のものとし、小さな気づきから普段の様子などを記入する。 必要であればミーティングを開きより実践的な介護計画に取り組んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の対応を大切にしている。 臨機応変の対応を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々変化する生活状況を把握しご本人様の保有能力が最大限に発揮できるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、話し合っ てできるだけ希望に沿えるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝夕の申し送り、又、状態に変化があった時は提携している看護師に報告・相談・指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、提携している看護師又はスタッフが同行し、情報提供を行い退院についても細かく情報を得るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族様、主治医、ケア関係者の意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。 施設の対応力もスタッフ同士で話し合い、確認して支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の観察を主とし、変化が見極められるようにしている。 急変時もマニュアルに従って的確に行動できるように話し合い、定期訓練も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での訓練は定期的に行い、地域の方や他の事業所の協力が実際に得られるように日頃から話し合いを行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人おひとりの気持ちを尊重し、利用者様が不快な気持ちにならないように言葉遣いにも十分気をつけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的な声掛けには十分注意し利用者様の希望や願いに応えるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせて、毎日が楽しく過ごして頂けるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの身だしなみやおしゃれを個別に支援し行事などの時は身だしなみからも楽しんで頂けるように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の力を活かしながら、スタッフと共に食事を味わい、食事が楽しいものになるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者様の食べ物や飲み物の好みの習慣、様子を把握し、個別に合わせたカロリー摂取や水分摂取をして頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の保有能力を活かし、ご自身できるように心掛け、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンや様子をみて、声掛けを行い、嫌な気持ちにならないように努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、ご家族様にも相談しながら自然排便を促すように努めている。又、食事、水分量の把握をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様に無理強いをすることなく、お一人おひとりの意向を第一に、寛いだ気分で入浴できるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が必要な休息や睡眠がとれるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作り、毎日確認を行っている。飲み忘れや誤薬を防ぐ為に、投薬後に空袋の確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に具体的な役目を持ってお手伝いをして頂き、ご本人様が出来る事をして頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と外出したり、スタッフと一緒に気分転換として散歩を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が必要物はご家族様と相談して購入するようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意見を尊重し希望があれば行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて飾りつけや写真などを貼り、くつろぎ、落ち着いて過ごせる生活環境を作りだしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が落ち着き、プライバシーが保て、自由に過ごせる空間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使っていた馴染みの家具やグッズを持ってきて頂き、今までの自分の家と同じような居室作りをしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活が送れるように、又、自分の生活が出来るように心掛けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない